

全国大会報告

第94回 全国高等学校ラグビーフットボール大会

お礼のご挨拶

この度は札幌山の手高校ラグビー部の花園出場に際しまして、多数の同窓生、学校関係者、ラグビー関係者、並びに地域の皆様から暖かい励ましと多大なるご芳志を頂きました。ここに心よりお礼を申し上げます。本校ラグビー部が15年連続で花園に出場することが出来たのも、皆様からご支援を頂いた賜であり、深く感謝いたします。

一回戦の対戦相手は佐賀県代表の強豪、佐賀工業高校でした。開始から4分、15分と立て続けにトライを奪われたものの、前半はその2トライに抑え0対10でハーフタイムを迎えました。後半は山の手が先にトライを奪い3点差となりましたが、その後3連続トライを献上し、2年ぶりの初戦敗退となりました。山の手としては、フォワード戦に自信を持つ佐賀と互角に対抗し、決定力のあるバックスで勝機をつかむというプランでした。しかし、逆に狙い通りのゲームをさせる結果となりました。

現在選手たちは花園で味わった悔しさを胸に、一致団結して練習に取り組んでいます。しかし新チームはここ数年の中で最も体が小さく、より一層の筋力強化が必要です。昨年からはじめた早朝のトレーニングにも、必死に取り組んでいます。

最後に、今後も本校ラグビー部をご支援いただき、更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。お礼のご挨拶いたします。

札幌山の手高等学校 校長 西岡 憲廣
札幌山の手高校ラグビー部後援協会 会長 内海 力男

試合結果

▽1回戦 12月28日 花園第Ⅲグラウンド

札幌山の手(北海道) 14 - 34 佐賀工業(佐賀)

0	トライ	2
0	ゴール	0
0	PG	0
0	前半	10
2	トライ	4
2	ゴール	2
0	PG	0
7	後半	24
14	合計	34



FW戦で優位に立った佐賀工がリードする展開となった。山の手も積極的な攻撃で反撃するも及ばず、佐賀工が勝利を収めた。

日本ラグビー協会 戦評より

なお、この大会後に発表された高校日本代表の最終候補に、3年の舟橋諒将(N o. 8)と2年のモリキ・リード(F B)の2名が選出された。

平成26年度 全国大会出場協賛金決算

収入の部

1. 寄付金	1,639,753
2. 父母会負担	5,610,000
3. 生徒会	4,103,500
合計	11,353,253

支出の部

1. 1次合宿	1,643,732
2. 2次合宿	4,639,032
4. 本大会	4,528,455
5. 装具費	435,068
6. 事務費	61,953
7. その他	40,000
合計	11,348,240

この度はラグビー部の全国大会出場にあたり、数百名の方々から心温まるご支援をたまわり、有り難うございました。今後とも、本校ラグビー部へのご支援とご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。残金につきましては、次年度の強化費として使わせて頂きます。

事務局長 藤井 栄人

収支差引額 5,013円

花園観戦記

札幌山の手高校ラグビー部父母会会長 内海 力男

12.26 多くの期待と不安を抱えながら保護者、学校関係者ら約40名の方々に出席頂き、19:00～山の手高校応援団決起集会が行われる。場所は、河内小坂駅前の韓国創作料理「さくら」8年連続のお店だそうで、山の手応援団も大いに盛り上がり団結力を増し多少の緊張感を持ちながらも、明後日の試合に臨む体制をつくる…。

12.27 「第94回全国高等学校ラグビーフットボール大会」開会式、生駒山から吹き込む冷たい風もなく気持ちの良い快晴の中、応援に駆け付けて頂いた保護者、OB、学校関係者ら皆様と共に、元氣よく行進する選手達…。北海道代表の中標津高校、竹崎主将の選手宣誓を見て感動を覚える。

この日、山の手高校は試合が無開会式後に宿舎に戻り、午後からの練習(調整)のために近畿大学に向かう。山の手応援団は14:40～中標津高校の一回戦応援のために第2グラウンドへ、試合は気持ちの入った見事な試合運びで36-12のスコアで中標津の勝利。大いに元氣を貰い明日への脱氣を養う。

12.28 風は多少冷たいが晴天。山の手7山の手高校の出番である。相手は、佐賀県代表の県立佐賀工業高校。33年連続43回目の出場を誇る伝統校である。山の手は7月に菅平で行われたセブンスの全国大会で勝利しているものの、佐賀工は6月の全九州高校大会を制し、伝統的にFWの強いシード校でも不思議でない強豪校である。10:00～花園第3グラウンドにて佐賀工のキックオフ。試合は戦前の予想通り佐賀工がFWを前面に出してくる戦いを仕掛けてくる。前半4分、自陣5mスクラムから④にサイドを突かし、外に回され右端に先制トライを奪われる(0-5)。前半15分、同じく自陣5mスクラムを押し込まれ、最後は④が持ち込みトライ(0-10)。その後も佐賀工は執拗にモールを組み押し込んでくる。山の手はゴール前に釘付けとなるが、必死の防衛でゴールラインを割らせない胃が痛くなる展開となるが、個人的には最後の15分間はチームの成長の跡が見られた素晴らしいゲームであったと感じる。選手達の体を張ったプレイにより、良い流れで前半を終了する。山の手はキックオフで後半開始。前半の辛抱により山の手に流れが来る…。ブレイクダウンで時間をかけず山の手を目指す素早い展開で佐賀工のDFラインを左右に揺さぶり、理想的な形で決定的なトライチャンスをつくるがミスがでしてしまう。後半6分、自陣22mから⑧舟橋-①佐藤陽-①飛野とつなぎ、①が走りきって左端に特製のトライが生まれる(6成功7-10)。一気にスタンドの応援も盛り上がる。その後は10分、15分、22分と立て続けに佐賀工にモールを押し込まれトライを奪われ突き放される。(7-27)選手達の気持ちも切れたかと思われた後半25分、敵陣22mでのPKから⑩木津谷が持ち込み、最後は①飛野が飛び込みトライ、6成功(14-27)後半29分、最後はラインアウトからのモールで中央にトライを奪われ留めを割られる(14-34)。その後も最後まで決して諦めることなく攻め続けるが後半33分、無念のノーサイド。

この試合での勝敗の分かれ目や「打倒シード校」の目標を達成するために、チームとして何が必要なのかは選手達が一番認識していると思うので、あえて触れません。それよりも私は選手達(チーム)の「心技体」の成長した姿を見ることができ本当に嬉しかった。この試合の中では特にディフェンス(タックル)にその姿が表現されていたように思えてなりません。「よく我慢して耐えたね!!」絶対にこの経験がこれからの人生の中で生きてくるはずです。15年連続の花園出場は、きっと山の手ラグビーの基盤を築く15年であり、きっと次の15年は飛躍の15年となると思います。あの難しい角度からの2本のコンバージョンキックの成功…。1本は新チームへの元氣主将からの「思い」であり、もう1本は「パス」です。私もしっかりとその「思い」を心に刻み込み、その「パス」を受け止めて、これからも飛躍期に入る札幌山の手高校ラグビー部を見守っていききたいと思います。

少し寂しくなりますが「今まで感動をありがとう!! GENKI MAX!!」

余談 この夜は、祝勝会をする予定でしたが、残念会となってしまい(笑)約40名の参加がありました。しんみりとする会になるかと思いましたが、意外にも明るくGENKIな会となりました…。

2014年 平成26年 12月29日 月曜日



楽しい観戦の場、行るように観戦を見つめるスタンドの父母ら

全国高校ラグビー 初戦で涙

札幌山の手強豪相手に健闘

スタンド加入者「粘り強い守備」

【記者 藤原 隆】 花園大会初戦、山の手高校は北海道代表の中標津高校と対戦し、36-12で勝利した。試合終了後、スタンドに加入した保護者ら約40名は、選手達の健闘を称え、涙を流した。この試合は、山の手高校にとって、15年連続の花園大会出場となった。試合は、山の手高校の選手達が、粘り強い守備で、中標津高校の攻撃を食い止めた。最終的に、山の手高校は、36-12で勝利した。この勝利は、山の手高校にとって、大きな励みとなった。保護者らは、選手達の健闘を称え、涙を流した。この試合は、山の手高校にとって、15年連続の花園大会出場となった。試合は、山の手高校の選手達が、粘り強い守備で、中標津高校の攻撃を食い止めた。最終的に、山の手高校は、36-12で勝利した。この勝利は、山の手高校にとって、大きな励みとなった。保護者らは、選手達の健闘を称え、涙を流した。